

東京海洋大学海洋生命科学部の3つのポリシー【増補版】

この表は、大学の目的、学部の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の関連を分かりやすく示すため、各ポリシーの内容を整理・統合し、記載を追補したものです。学科ごとのポリシーを含む各ポリシーの全文については、[こちら](#)をご覧ください。

大学の目的（東京海洋大学学則第1条）	学部の教育研究上の目的														
<p>東京海洋大学は、人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行うとともに、次の能力・素養を有する人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養 	<p>海洋生命科学部においては、海洋を含めた水圏に生息する多様な生物の資源としての保全・利用やそれらに関するバイオテクノロジー、食料の利用・加工、海洋政策や文化に関心と興味を持ち、これらに係わる諸課題を追求し、解決するための行動力とグローバル化への対応力を身につけた高度専門職業人を養成するとともに、これらの諸課題に係わる基礎から応用に至るまでの研究を行うことにより、人類社会の発展に貢献することを教育研究上の目的とする。</p>														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>海洋生命科学部においては、海洋を含めた水圏に生息する多様な生物の資源としての保全・利用やそれらに関するバイオテクノロジー、食品としての生産理論と技術、人との共生関係に根ざした海洋政策や文化に関心と興味を持ち、グローバル化するこれらに係わる諸課題を追求し、解決するための行動力とグローバル化への対応力を身につけた高度専門職業人の養成を目指します。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p> <p>【豊かな人間性、幅広い教養等】 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力</p> <p>【国際性・語学能力等】 国際交流の基盤となる幅広い視野・語学能力と文化的素養</p> <p>【論理的思考、判断力、責任感】 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力</p> <p>【専門的知識の深化・応用・実践】 海洋に対する科学的・文化的認識を深化させ、生物資源の利用・保全の方策、食品生産技術、海洋産業・海洋文化の望ましい持続的発展の方策を提示し、実践する能力</p> <p>【実践的指導力】 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>3. 卒業認定(学位授与)の要件</p> <p>所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生〔1〕に対して卒業を認定し、学士(海洋科学)の学位を授与します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	<p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>海洋生命科学部においては、海洋を含めた水圏に生息する多様な生物の資源としての保全・利用やそれらに関するバイオテクノロジー、食品としての生産理論と技術、人との共生関係に根ざした海洋政策や文化に関心と興味を持ち、グローバル化するこれらに係わる諸課題を追求し、解決するための行動力とグローバル化への対応力を身につけた高度専門職業人の養成を目指します。</p>	<p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p> <p>【豊かな人間性、幅広い教養等】 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力</p> <p>【国際性・語学能力等】 国際交流の基盤となる幅広い視野・語学能力と文化的素養</p> <p>【論理的思考、判断力、責任感】 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力</p> <p>【専門的知識の深化・応用・実践】 海洋に対する科学的・文化的認識を深化させ、生物資源の利用・保全の方策、食品生産技術、海洋産業・海洋文化の望ましい持続的発展の方策を提示し、実践する能力</p> <p>【実践的指導力】 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力</p>	<p>3. 卒業認定(学位授与)の要件</p> <p>所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生〔1〕に対して卒業を認定し、学士(海洋科学)の学位を授与します。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、素養を獲得できるよう、幅広く深い教養と語学力を身につけるための「総合科目」、多様化・高度化する専門分野の諸課題を理解するための「基礎科目」「コア課程科目」および深い学識を涵養し、専門的な能力を育成するための「アドバンスト課程科目」を有機的に連関させたカリキュラムを提供し、大学院教育との接続を行います。さらに「グローバル・キャリア関連科目」により国際社会、産業界等の社会への接続をスムーズにします。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>2. 教育課程実施の方針</p> <p>【総合科目】 総合科目は、全学体制のもとで開講し、幅広い教養、論理的思考能力、文化的素養、国際的視野、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的に、海洋に特化した大学にふさわしい内容を精選して構成します。〔2〕</p> <p>【基礎科目・コア課程科目】 基礎科目、コア課程科目では、各学科の専門科目を学ぶための基盤となる自然科学、数理科学および人文・社会科学を学修します。グローバル関連科目では、進級要件化されている英語資格試験関連の講義と演習を行います。〔3〕</p> <p>【アドバンスト課程科目】 アドバンスト課程科目においては、状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力を修得することを目標として、講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。海洋生物資源学、食品生産科学、海洋政策文化学に関する専門知識、すなわち、海洋生命科学、海洋生物資源学、食品科学、食品生産科学、国際海洋政策、多文化環境論を修得することにより、必要な専門知識を身につけることができます。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>【学修成果の評価の方針】〔4〕 シラバスで科目毎に学習成果の評価基準を明示します。講義科目では主として知識の理解度、実験・実習・演習では課題の設定能力、課題解決への探求心、分析力、実験技術の習熟度を評価します。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	<p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、素養を獲得できるよう、幅広く深い教養と語学力を身につけるための「総合科目」、多様化・高度化する専門分野の諸課題を理解するための「基礎科目」「コア課程科目」および深い学識を涵養し、専門的な能力を育成するための「アドバンスト課程科目」を有機的に連関させたカリキュラムを提供し、大学院教育との接続を行います。さらに「グローバル・キャリア関連科目」により国際社会、産業界等の社会への接続をスムーズにします。</p>	<p>2. 教育課程実施の方針</p> <p>【総合科目】 総合科目は、全学体制のもとで開講し、幅広い教養、論理的思考能力、文化的素養、国際的視野、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的に、海洋に特化した大学にふさわしい内容を精選して構成します。〔2〕</p> <p>【基礎科目・コア課程科目】 基礎科目、コア課程科目では、各学科の専門科目を学ぶための基盤となる自然科学、数理科学および人文・社会科学を学修します。グローバル関連科目では、進級要件化されている英語資格試験関連の講義と演習を行います。〔3〕</p> <p>【アドバンスト課程科目】 アドバンスト課程科目においては、状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力を修得することを目標として、講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。海洋生物資源学、食品生産科学、海洋政策文化学に関する専門知識、すなわち、海洋生命科学、海洋生物資源学、食品科学、食品生産科学、国際海洋政策、多文化環境論を修得することにより、必要な専門知識を身につけることができます。</p>	<p>【学修成果の評価の方針】〔4〕 シラバスで科目毎に学習成果の評価基準を明示します。講義科目では主として知識の理解度、実験・実習・演習では課題の設定能力、課題解決への探求心、分析力、実験技術の習熟度を評価します。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>海洋生命科学部では、生命科学をはじめとする自然科学、人文・社会科学の深い理解を基盤に、人類社会の持続可能な発展に資するために、海洋を含む水圏に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、海洋生物資源の利用、食品の生産・流通、人と海の共生などの分野に意欲的に取り組む学生を求めています。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p> <p>(知識・技能) (1) 本学部の教育を受けるうえで必要な資質と英語力を含む基礎学力を有すること。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等の能力) (2) 旺盛な学習意欲があり、新しい課題に積極的に取り組めること。 (3) 常に視野を広め、主体的に考える姿勢を持つこと。</p> <p>(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) (4) コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重できること。 (5) 実用的に使える英語力を修得し、グローバル社会での活躍を目指すこと。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査、総合型選抜や学校推薦型選抜を行います。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔5〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜(学科ごとに定める。) ○ 学校推薦型選抜(学科ごとに定める。) ○ 私費外国人留学生特別入試 (個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、調査書) ○ 一般選抜(前期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 一般選抜(後期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) </td> </tr> </tbody> </table>	アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)	<p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>海洋生命科学部では、生命科学をはじめとする自然科学、人文・社会科学の深い理解を基盤に、人類社会の持続可能な発展に資するために、海洋を含む水圏に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、海洋生物資源の利用、食品の生産・流通、人と海の共生などの分野に意欲的に取り組む学生を求めています。</p>	<p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p> <p>(知識・技能) (1) 本学部の教育を受けるうえで必要な資質と英語力を含む基礎学力を有すること。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等の能力) (2) 旺盛な学習意欲があり、新しい課題に積極的に取り組めること。 (3) 常に視野を広め、主体的に考える姿勢を持つこと。</p> <p>(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) (4) コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重できること。 (5) 実用的に使える英語力を修得し、グローバル社会での活躍を目指すこと。</p>	<p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査、総合型選抜や学校推薦型選抜を行います。</p>	<p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔5〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜(学科ごとに定める。) ○ 学校推薦型選抜(学科ごとに定める。) ○ 私費外国人留学生特別入試 (個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、調査書) ○ 一般選抜(前期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 一般選抜(後期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査)
ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)															
<p>1. 目指すべき人材像(個性、特色、魅力)</p> <p>海洋生命科学部においては、海洋を含めた水圏に生息する多様な生物の資源としての保全・利用やそれらに関するバイオテクノロジー、食品としての生産理論と技術、人との共生関係に根ざした海洋政策や文化に関心と興味を持ち、グローバル化するこれらに係わる諸課題を追求し、解決するための行動力とグローバル化への対応力を身につけた高度専門職業人の養成を目指します。</p>															
<p>2. 学生が身につけるべき能力、素養の目標</p> <p>【豊かな人間性、幅広い教養等】 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力</p> <p>【国際性・語学能力等】 国際交流の基盤となる幅広い視野・語学能力と文化的素養</p> <p>【論理的思考、判断力、責任感】 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力</p> <p>【専門的知識の深化・応用・実践】 海洋に対する科学的・文化的認識を深化させ、生物資源の利用・保全の方策、食品生産技術、海洋産業・海洋文化の望ましい持続的発展の方策を提示し、実践する能力</p> <p>【実践的指導力】 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力</p>															
<p>3. 卒業認定(学位授与)の要件</p> <p>所定の年限を在学し、学部および学科の教育目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生〔1〕に対して卒業を認定し、学士(海洋科学)の学位を授与します。</p>															
カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)															
<p>1. 教育課程編成の方針</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、素養を獲得できるよう、幅広く深い教養と語学力を身につけるための「総合科目」、多様化・高度化する専門分野の諸課題を理解するための「基礎科目」「コア課程科目」および深い学識を涵養し、専門的な能力を育成するための「アドバンスト課程科目」を有機的に連関させたカリキュラムを提供し、大学院教育との接続を行います。さらに「グローバル・キャリア関連科目」により国際社会、産業界等の社会への接続をスムーズにします。</p>															
<p>2. 教育課程実施の方針</p> <p>【総合科目】 総合科目は、全学体制のもとで開講し、幅広い教養、論理的思考能力、文化的素養、国際的視野、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的に、海洋に特化した大学にふさわしい内容を精選して構成します。〔2〕</p> <p>【基礎科目・コア課程科目】 基礎科目、コア課程科目では、各学科の専門科目を学ぶための基盤となる自然科学、数理科学および人文・社会科学を学修します。グローバル関連科目では、進級要件化されている英語資格試験関連の講義と演習を行います。〔3〕</p> <p>【アドバンスト課程科目】 アドバンスト課程科目においては、状況を大局的に把握し、諸課題を総合的に理解・判断できる能力を修得することを目標として、講義、演習、実験、実習を編成し、組織的かつ体系的な教育を行います。海洋生物資源学、食品生産科学、海洋政策文化学に関する専門知識、すなわち、海洋生命科学、海洋生物資源学、食品科学、食品生産科学、国際海洋政策、多文化環境論を修得することにより、必要な専門知識を身につけることができます。</p>															
<p>【学修成果の評価の方針】〔4〕 シラバスで科目毎に学習成果の評価基準を明示します。講義科目では主として知識の理解度、実験・実習・演習では課題の設定能力、課題解決への探求心、分析力、実験技術の習熟度を評価します。</p>															
アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)															
<p>1. 受け入れる学生に求める関心、意欲</p> <p>海洋生命科学部では、生命科学をはじめとする自然科学、人文・社会科学の深い理解を基盤に、人類社会の持続可能な発展に資するために、海洋を含む水圏に関するグローバルな諸課題に関心を持ち、世界をリードする研究を通して、海洋生物資源の利用、食品の生産・流通、人と海の共生などの分野に意欲的に取り組む学生を求めています。</p>															
<p>2. 受け入れる学生に求める学修成果</p> <p>(知識・技能) (1) 本学部の教育を受けるうえで必要な資質と英語力を含む基礎学力を有すること。</p> <p>(思考力・判断力・表現力等の能力) (2) 旺盛な学習意欲があり、新しい課題に積極的に取り組めること。 (3) 常に視野を広め、主体的に考える姿勢を持つこと。</p> <p>(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度) (4) コミュニケーション能力を高め、異なる考え方や文化を尊重できること。 (5) 実用的に使える英語力を修得し、グローバル社会での活躍を目指すこと。</p>															
<p>3. 入学者選抜での評価方法</p> <p>本学部での教育を受けるうえで必要な資質と基礎学力を判定するために、大学入学共通テスト、個別学力検査、総合型選抜や学校推薦型選抜を行います。</p>															
<p>4. 選抜方法と学修成果の評価〔5〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型選抜(学科ごとに定める。) ○ 学校推薦型選抜(学科ごとに定める。) ○ 私費外国人留学生特別入試 (個別学力検査、面接、日本留学試験の成績、志望理由書、調査書) ○ 一般選抜(前期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) ○ 一般選抜(後期日程) (大学入学共通テスト、個別学力検査) 															

〔1〕 要件を満たした学生は、本学が学位授与において求める能力、素養を身につけているものと認めます。
 〔2〕 総合科目では、広範な教養教育科目等に加えて、初年次教育として共通導入科目を設け、海洋関連分野の概論科目、情報リテラシー科目、日本語表現法等の学部専門教育の学修基盤となる科目を開講します。
 〔3〕 基礎科目では、数理・自然科学、人文・社会科学の基礎科目群に加えて、グローバル・キャリア関連科目として、TOEIC L&R関連科目や海外インターンシップを含むキャリア教育科目等を開講します。
 〔4〕 シラバスには評価基準に加えて到達目標・評価方法等が明示されており、科目ごとに定める到達目標の達成度について、定期試験、レポート、プレゼンテーション等により厳格な成績評価を行い、当該評価結果に応じ、A+・A・B・C・Fの成績を付与します。
 〔5〕 学修成果の評価については、選抜方法ごとに上記2.に掲げる学修成果に対する比重を定めていますが、本表では記載を省略します。(内容はアドミッションポリシー(全文)でご確認ください。)